

魁

【訓】えきがけ エキガ・ケ
【音】カイ

他に先んじること。先駆け。
かしら。頭領。首領。大物。

日本語の「さきがけ」は「先に駆けること」ですが漢字そのものは「頭(かしら)」「大物」といった意味を持つています。この文字は「鬼」と「斗」からなっていますが、「鬼」という字は「おに」の意味の他に「強く勇ましいもの」「大きい」という意味もあります。「斗」は柄の付いた「ひしゃく」の形の意。中国の天文学・占星術にある二十八宿の一。北方の第一宿。射手座中の北西部の六星、南斗六星をさします。あわせて「大きなひしゃく」「北斗七星の頭部の四星」または「その第一星」を意味します。その後、文運を支配する星とされたことから「かしら」「頭領」「第一番目」「えきがけ」「最先端」などの意味にならました。

魁(えきがけ)の技術を、お客様のもとへ。

私たちは「いいものをお客様にお届けしたい」の想いのもとに、業界の先駆けとなるべく

「高出力ファイバーレーザ発振器」を自社開発。

そのボテンシャルを最大限に引き出すために

3軸リニア世界最速マシンに搭載、

従来機を大きく凌駕する。

高性能ファイバーレーザマシンをお届けします。

加工速度は分速100mと、従来のCO₂機に比べ約5倍の速さを実現。アルミ加工のほか、銅、真鍮の難削材も加工可能としながら、電力消費量1/3、ランニングコスト70%以上をカットしました。

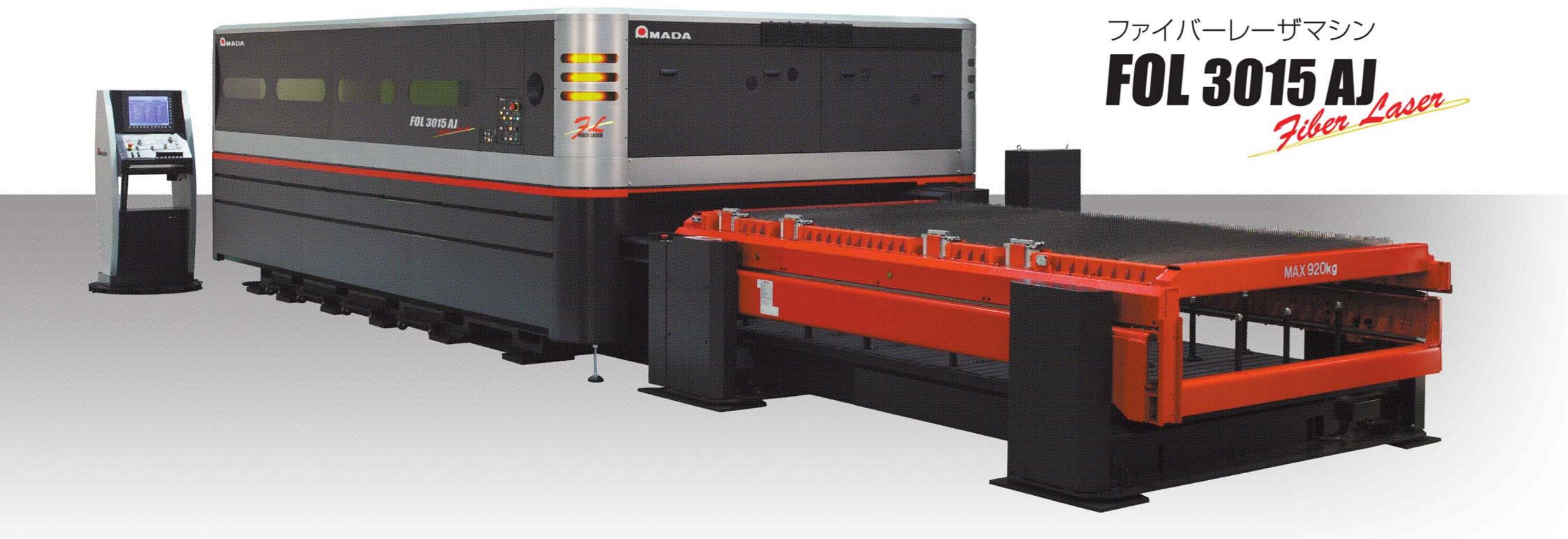
この度の栄誉は、お客様への想いから生まれたもの。

この革新が、お客様がますますめる

「モノづくり」の革新となるために。

そして、お客様がさらに「魁」となることを信じて・・・。

アマダはいつの時代もお客様とともに歩んでまいります。



ファイバーレーザマシン
FOL 3015 AJ
Fiber Laser

*危険防止措置を外しています。

第54回 日刊工業新聞 十大新製品賞 増田賞受賞

世界初!
マシンメーカーによる
高出力ファイバーレーザ発振器の
(2kW・4kW)を自社開発。
ノウハウをバックボーンに、世界に先駆けて
高性能発振器を自社開発。加工機までの
一貫した開発・生産体制により、定評ある
レーザ加工技術をしっかりと反映させ
ながら、より高度な技術へと展開、従来機を
大きく凌駕する高性能レーザマシンに
結実させました。

加工スピード
従来機(CO₂)比^{*}5倍。

ファイバーレーザ発振器の
ポテンシャルを支える世界
最速3軸リニアドライバとの
ベストマッチング、速さの融合
が新次元の加工を実現。溶け
込み熱ひずみを極小化^{100μm}
のレーザ光幅で、微細加工でも
際立つ仕上がりです。

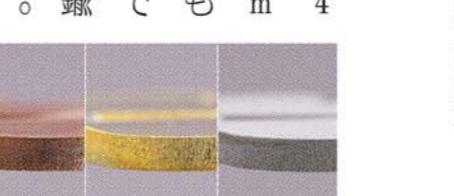
※ドライバードライブ用の組合せ

アルミ材加工に威力を発揮。
銅、真鍮も加工可能。

高エネルギー変換が可能と
なり、エネルギー効率は従来
CO₂レーザに比べ3倍、電力
消費量を大幅に削減。暖気
運転やレーザガス不要で、
ランニングコストを70%以上
カットしました。



電力消費量1/3。
CO₂レーザ光波長1.08μm
と、高反射材のアルミでも
しっかり加工。CO₂ではで
きなかったチタンや銅、真鍮
など難削材も加工可能です。



難削材も加工が可能です。



エッジ部分の溶け込みがありません。